

顕微授精に関する説明書

1. 採卵

採卵は、静脈麻酔下で(鎮静剤を使用して)行いますので採卵当日は絶飲絶食で来院してください。経腔超音波で確認しながら腔から卵巣へ針を刺し、卵胞内の卵胞液を吸引します。卵胞液から卵子を採取できたら、培養液の中で数時間培養します。採卵後の状態に問題がなければ、約3時間後に診察し退院となります。 ※卵胞の発育不良や卵胞中の卵子が未熟な場合は、採卵できないことがあります。

【鎮静剤の使用について】

鎮静剤は点滴で投与します。鎮静剤を投与すると眠たいような状態になり、苦痛を和らげることができませんが、効きやすさには個人差があります。

【鎮静中の身体抑制の可能性について】

鎮静剤により眠たいような状態になると、身体が動いてしまうことがあります。採卵は針を使用するため、お身体の動きが大きい場合には、安全を考慮し必要最小限の抑制(身体の固定)をさせていただく場合があります。

【鎮静剤投与の合併症】

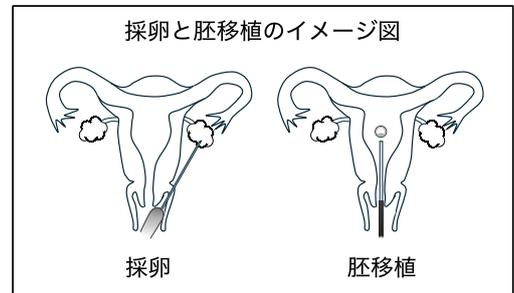
血管痛、アレルギー、血圧低下、呼吸抑制、覚醒遅延、健忘などが起こりえます。また、身体抑制によっても知覚・血行・皮膚障害、運動・神経障害などの障害が起こることがあります。合併症が起きた場合、最善の処置を行う努力を致しますが、入院・点滴や酸素投与・気管内挿管・蘇生処置が必要になることがあります。

【採卵後の注意事項】

目が覚めたあとも鎮静剤の影響が残り、眠気やふらつきにより転倒することがありますので、採卵後約1～2時間はベッドで休んでいただきます。また採卵後は、ご自身での車の運転や、高所作業など危険を伴う仕事は、控えるようご注意ください。

2. 精子採取

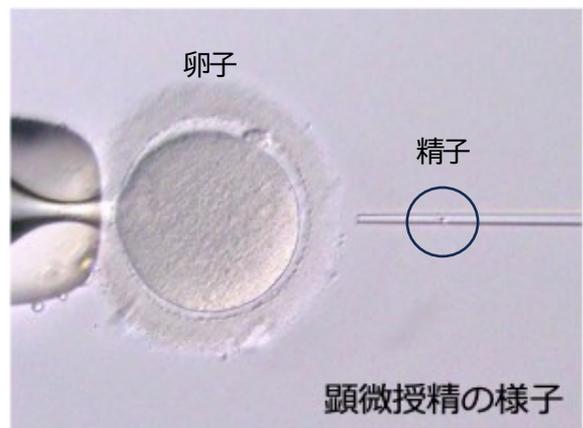
- 採卵当日の朝に、精液を的手法で指定の容器に採取し、病院へお持ちください(病院での採取も可能です)。
- 事前に凍結保存した精子を融解して顕微授精に用います。
- TESE 手術で精巣から取り出した精子を用いて顕微授精を行います。



3. 顕微授精

顕微鏡で観察しながら、マニピュレーターを用いて1匹の精子を卵子細胞質内へ注入します。

当院における顕微授精の受精率は約80%です。受精した胚は3～5日間培養します。



4. 胚移植

胚を子宮内へ戻します。胚移植にかかる時間は約

30分です(麻酔は必要ありません)。胚移植のためにホルモン剤(貼付剤/腔剤/内服)を使用します。

※ 卵子を採取できなかった、卵子が受精しなかった、胚発育が不良な場合は、胚移植をキャンセルすることがあります。

5. 合併症の可能性について

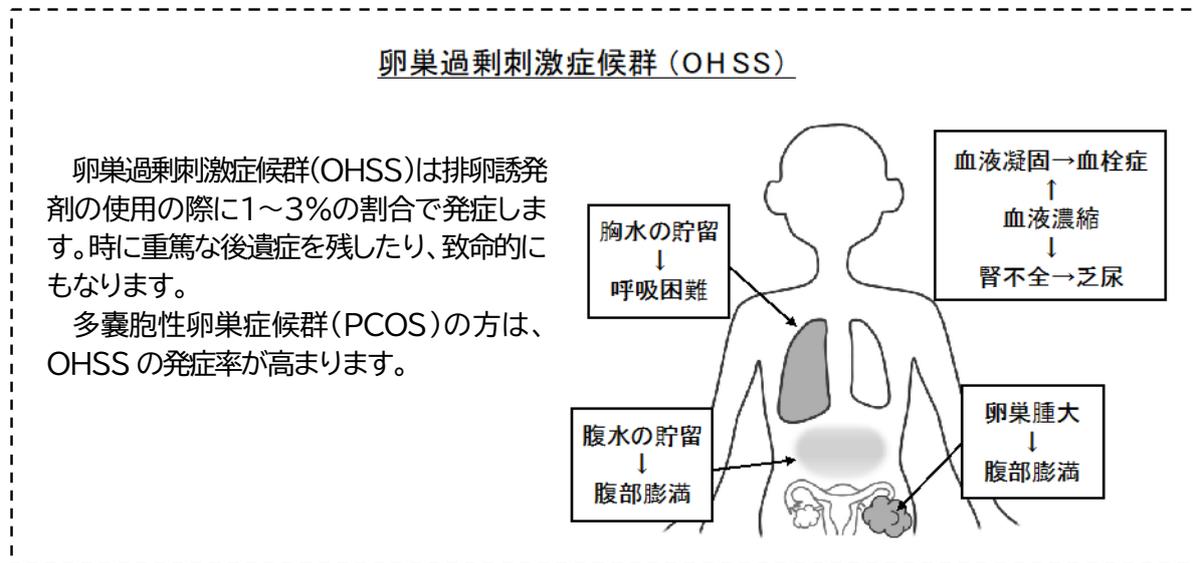
採卵時の合併症

- 出血:採卵部位からの出血が止まらない場合、卵巣や膣の止血手術が必要になることがあります。
- 感染:予防的に抗生剤を内服/注射していただきます。
- 周辺臓器(膀胱や腸など)の損傷:程度が重篤な場合、修復手術が必要になることがあります。
- 麻酔や薬剤によるアレルギー:排卵誘発剤や黄体ホルモン剤、採卵時の抗生剤でごくまれに蕁麻疹や血圧低下など何らかのアレルギー反応を起こすことがあります。

採卵後の合併症

- 卵巣過剰刺激症候群

採卵後、卵巣が腫れ、お腹に腹水がたまるときがあります。急に体重が増えた、尿量が少ない、息苦しい、お腹が張り出してきたなどの症状がある場合は、すぐにご連絡いただき来院してください。血栓症や肺水腫、腎不全が起こることもあるので、重症の場合は入院していただくことがあります。



6. 顕微受精の適応

体外受精では受精できない場合、顕微受精の適応となります。

- 精子が少ない(男性側)
高度乏精子症(精子の数が少ない)・精子無力症(精子の運動能力が低い)
無精子症は、TESE(精巣内精子採取術)の適応となります。
- 受精障害(女性側)
卵子を包む透明帯が硬い

7. 安全性(先天異常・染色体異常など)

顕微受精が臨床応用されてまだ日が浅く、顕微受精による出生児で「染色体異常や先天奇形が増えないか」、「知能や発達に正常なのか」について、評価するための十分なデータが揃っていません。現状では、「先天異常の頻度は増加しない」という報告と、「わずかに増加するかもしれない」という報告があり今後に残された課題です。

顕微受精の適応となる方で、染色体異常の頻度が高い可能性を指摘する報告もありますが、十分なコン

センサスは得られていません。ただし、非閉塞性の無精子症や高度な乏精子症を示す方では、8～18%にY染色体の遺伝子の一部が欠損しているという報告があります。もし、造精機能障害(精子を造る機能の障害)がそのような遺伝子異常によるものであれば、顕微受精により出生した子どもが男児の場合、造精機能障害が遺伝する可能性が指摘されています。

このように、顕微受精による出生児では、長期的な健康障害など次世代への影響について判明していない点がいくつかあり、安全性が完全に証明されたわけではありません。生殖補助医療によって出生した児の健康状態を長期にわたってフォローアップすることは、不妊治療の有効性と安全性を確認するために重要です。妊娠・出産された場合は、追跡調査へのご協力をお願い致します。

8. 当院の治療成績

採卵1回あたりの成績は、妊娠率21%、出産率16%です。妊娠あたりの流産率は21%です。年齢とともに、妊娠率・出産率は低下し、流産率が上昇しています。

9. 費用

原則的に保険診療です。なお、当院では、すべての胚をタイムラプス培養器を用いて観察培養し、良好胚を選択しています。タイムラプス培養は先進医療に含まれるため、その経費を自費診療で徴収させていただきますことをご了承ください。また、当院では、精子の状態に応じて生理学的精子選択術を行っています。こちらも先進医療(自費診療)に含まれるため、自費診療として徴収させていただきます。いずれも福井県の助成金の対象となりますので、詳しくは助成金の案内をご参照ください。

10. キャンセルについて

治療継続が困難となり、キャンセルせざるを得ない場合があります。また、本人またはパートナーの申し出があれば、いかなる段階でも治療を中止いたします。

福井大学医学部附属病院 高度生殖医療センター